

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101151		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム太陽の里		
所在地	島根県松江市佐草町72-1		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://rue&amp;JigyosyoCd=3270101151-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionCd=022">rue&amp;JigyosyoCd=3270101151-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionCd=022</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成26年11月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症の専門ケアとして、認知症介護実践者研修の修了者もあり、職員の殆どが介護 福祉士の資格取得者でもあり、専門性を生かし、個別ケアに力を入れている。最近では、ユマニチュードの技法も取り入れ、勉強会や本・DVDも参考にし、職員全員が自分のケアを見つめなおし、目標を立てて実践している。又、看護師もおり、日常的な看護から看取りまで対応している。食事に於いても、昼食作りを再開し、献立作成から調理まで入居者様との関わりを密にとり、家庭的な雰囲気大切にしている。栄養面では、管理栄養士に確認・指導も得てバランスのとれた食事の提供に努めている。行事に於いては、ご本人やご家族の想いを大切に誕生日外出等も実施している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ゆったりと穏やかに利用者のペースに合わせてさりげない気配りをして笑顔で接している。今年度は「ユマニチュード」の技法を取り入れ、じっくり見守り正面から話しかけサインを見逃さないように全職員で取り組んでいる。家族に励ましてもらうこともあり、良い関係を築きながら共に利用者を支えている。以前からの計画であった車椅子も通る遊歩道を、敷地周りに職員でタイルを少しずつ敷きつめ半年かけて仕上げた。地域向けの広報誌を近隣に配布したり公民館にも置き、認知症の講話依頼も受け、事業所としての役割を拡げている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「みんなの笑顔と元気の為に」 ホーム理念「私たちは人々の幸せをお手伝いします」を基に、個別対応によりその方の幸せとは何かを考えながら実践している。又、毎朝朝礼時に皆で復唱している。	具体的な年度目標を立てて取り組み、日々職員同士で確認し合っている。きちんと利用者の正面で目線を合わせ、笑顔で話したり挨拶する等実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の早朝清掃活動の参加を継続して行っている。又、法人として公民館の夏祭りに参加したり、地域向けの広報誌「太陽の里便り」も継続して配布している。	公民館の行事に参加したり近くにある喫茶店にお茶を飲みに行く等、地域に出かけ普段から交流を図っている。事業所の祭りの時は近隣へ案内文を配り、大勢の人の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年開催している夏祭りでは、職員が入居者様に関わる姿を、又、日々の近隣の散歩時にはその様子等を見ていただいている。更に、地域に向けた広報誌では、認知症についての理解やケアの方法等載せていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催している。今年度は相談員の方々にも参加頂き、毎月の訪問時の様子も踏まえた貴重な意見も頂戴している。又、毎回の行事報告や議題について意見交換を行っている。	利用者の状況や活動を報告し、今年度は相談員に参加してもらっている。利用者が事業所内に留まらず地域の中で生活できるように話し合い、情報や助言を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へも毎回参加いただいております。意見交換も行えています。又、今年度は介護相談員派遣事業にも参加しています。	直接出向いたり、電話で情報交換を行い協力体制を築いている。ケース相談をすることもあり助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会や研修委員会を中心に法人全体での研修会や、事業所毎の勉強会を開催しており、知識の共有を図っている。	外部、内部研修や勉強会で年間計画を立てて学び、全職員が意志統一して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。止むを得ない時は家族と話し合い対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、法人全体・事業所毎に研修会の開催により理解を深め、委員会を中心に現状の確認から防止についての取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する法人全体での研修会(必須)に参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を基にゆくり時間をかけて説明させていただいている。不安なこと、疑問点は随時受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度両者へのアンケートを実施し、情報を公開して改善等に役立てている。又、今年度は家族会の開催も2度実施し、職員も交えての意見交換も出来た。	面会時、電話、家族会、アンケート等で意見を聞いている。家族会では食事を囲みながら率直な意見交換を行い、泊りや食事介助に気軽に来訪してもらえるようになった家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を通して聞く機会を設けている。又、事業所では管理者と職員の個別面談も実施しており、個々の意見も聞いている。	会議や日々の支援の中でも意見、提案がしやすい環境づくりに努めている。職員からの意見で浴室の改善等に取り組んだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系、就業規則も公表しており、職員個々の能力に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会も毎月実施されている。又、外部の研修にも参加できる機会を設けている。法人内の3グループホームでは交換研修も行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の3グループホームとの交換研修や、グループホーム部会主催の研修会への参加で交流が図られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様への事前面談を実施し、ご本人の状況や想い、困りごとを確認するよう心掛け、安心していただけるような関係性作りに努めている。又、入居当初はできるだけ寄り添い信頼関係が築けていけるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様とも事前面談を実施しており、ご本人同様不安なことや、要望等を伺っている。又、入居後も随時要望や近況報告をさせていただき、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の様々な施設形態も視野に入れた状態で面談を行い、入居判定にて他施設との情報共有も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、以前は出来ていた事等アセスメントを基に、個々の力を発揮できる場所の提供と、その時間を職員とともに過ごすことで「家族」同様な関係作りがなされるよう実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームの行事への参加の促しや、来所時には、日頃の様子を伝えたり、家族水入らずの時間を持っていたりしている。又、毎月の様子を写真入の手紙にして報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はなく、親戚・知人の方の面会がいつでも出来る様配慮している。又、アセスメントを元に馴染みの物等について職員同士で情報を共有し、支援につなげている。盆・彼岸のお墓参りもご家族の協力の下、実施している方もいる。	親戚、知人が継続して面会に来てくれるような環境づくりに努めている。家族の協力で家族とドライブに行ったり、自宅に帰り食事をしてくれる人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で関わりが持てる方には話題の提供を、又、コミュニケーションが難しい方には、職員が間に入ることで関わりが持てる様支援しているが、難しい場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方はご逝去された方が主であるが、その後もご家族との繋がりを持つ時もある。相談等や近くにお越しの時はいつでもお立ち寄り下さいとの声掛けもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦を基に、日々の会話やご本人の行動から想いを汲み取り、入居者様主体のケアに繋げていけるよう努力している。	家族との会話、家に同行した時見た利用者の仕草等からも気持ちを理解するように努めている。一人ひとりの性格を知り、言葉使い、声かけにも気を配り思いに沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様ごとに担当をつけており、一人ひとりのアセスメントシートを作成して、入居前からその後の経緯も含め全員で把握できるようカルテに添付している。馴染みの家具やアルバム等持ち込んでもらっている方もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、食事や水分摂取量、排泄状況、日常の生活の様子から心身状態の把握を行っている。又、一人ひとりの有する能力に合せた作業などにも配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のGH会議の中で職員間でモニタリングを行い、課題や日頃のケアについて話し合いを行い、介護計画に反映している。	担当者を中心に利用者、家族、職員からの情報を基に介護計画を作成し支援している。日常的に気付き用紙を活用し、状況に変化がある時はその都度見直し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、会話内容、身体状況まで記入しており職員間で情報の共有をしている。カルテ内には介護計画内容も記載しており、計画に沿ったケアが行える様努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により、他職種や御家族様との連携を図り臨機応変に対処するよう努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の行事に出掛けていたり、近隣の喫茶店に出掛けていくなど、本人の暮らしに楽しみが持てる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診、病院への受診等適切な医療を受けられるように関係構築している。特に精神科受診に於いては、日頃の様子を詳細に伝える意味もあり、ご家族に同伴の了解を得た上で職員が付添い受診している。	今迄のかかりつけ医を受診している。利用者の状況に応じて家族と一緒に受診に同行する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での異変や気づきを察知した時はすぐに看護職に相談・報告できる体制にある。24時間体制で夜間にも対応できるよう、マニュアルが整備されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を作成して、医療機関に提供し、安心して治療に専念出来るよう支援している。病院の相談員とも密に連絡を取り状況確認に努め、早期の退院に繋がるよう、カンファレンスの要請も状況を見極めてお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態に合わせて、家族・主治医とも連携を図り、カンファレンスも行い看取りに向けた方針も定め、ご家族の方に説明し、同意を得て取り組んでいる。	体調を見ながら関係者と話し合い、本人、家族の希望を大切にした支援を行っている。今年度2名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、法人で実施される「AED・救命講習」に定期的に参加し、緊急時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの防災訓練や、法人全体の勉強会を通し意識付けを行っている。運営推進会議でも訓練の実施報告をし、そこで出た課題や反省を基に、委員の方からも意見をいただいている。	消防署立ち会いで深夜想定訓練を利用者も参加して実施した。消防署からの指導や運営推進会議での意見を参考にしながら今後の課題を話し合っている。備蓄品もすぐ見える場所に用意してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に、個人情報について使用目的別に説明し同意を得ている。職員間で情報交換する時は、入居者様が不快な思いをしない様配慮している。又、自尊心を傷つけない様声掛けも注意するよう心掛けているが出来ていない時もある。	利用者の意志を止めないように一人ひとりのペースでの生活を尊重し思いを大切にした支援を心掛けている。トイレへの誘導時もプライバシーに配慮した声かけをするよう職員間で気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、職員の問いかけに対し自分の思いや希望を伝えられる方もある。表現が困難な方に対しては、その場その場で表情や行動から汲み取るようにし、申し送りノートを使い職員間で情報が共有できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、ご本人のペースにあわせた支援を行うようにしているが、出来ない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回外部業者に散髪を依頼し実施している。更衣においても、ご本人が選ばれる方もあるが同じ物に偏る傾向があるのでこまめな洗濯し清潔を心掛けている。男性入居者様においては、毎日の髭剃りを実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好の確認は、日頃の会話の中で行っている。個々の力によって「出来る事」を役割として行っていたり様支援している。食事時に使用するランチョンマットの作成も一環ととらえ職員と一緒に作成した。	昼食作りを再開し、利用者も芋の皮むきや盛り付け、いなり寿司の飯詰め等、力を発揮し一緒に行っている。家族会の時は、バイキング方式で食事をする等、楽しい場面づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは法人内の管理栄養士にも確認を取りながら偏らないよう助言・指導をお願いしている。又、個人記録にも食事摂取量の記載もしており一人ひとりの状況の把握をしている。水分量についてもチェック表を作成し、少ない方には摂取方法も職員間で検討し、個別の対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々に合った口腔ケアを実施している。ご自分で磨ける方には、声掛けと見守りをし、吸引ブラシ使用や、困難な方は支援を行っている。就寝前には義歯を外していただきホリデントにつけおきしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンについて、日頃のケアや会議等で把握・検討を重ね、トイレでの排泄を心掛けている。拒否の強い方もおられるが、支援の仕方を工夫して強制ではなく本人からのサインを待つ姿勢をとるよう努力している。	排泄パターンを把握しトイレで排泄が出来るように支援している。立位訓練をしたり、トイレの手すりをつかまりやすい場所につけかえたことで、オムツからトイレで排泄出来るようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて個別で把握できるようにしている。看護師とも蜜に連携を取り、下剤等で調整もしている。食事でも繊維の多い食品を取り入れるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、午後としているが、状況によって随時入浴いただいている。一人ひとりの希望やタイミングに合わせることは出来ないことが多い。ただ浴室の環境を整えたことでゆったりと過ごしていただいている。	移動用補助道具を揃える等利用しやすい工夫をしている。湯船に浸りゆっくり気持ち良く入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は馴染みのソファも活用して休んでいただいたり、その方にとって落ち着ける場所の提供を心掛けている。又、クッションや体交枕を使用し、安楽な姿勢で入眠いただける様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬方法は、個々にあった方法で服薬いただいている。お薬情報はカルテにファイルしている。臨時で処方された薬については、申し送りノートへの記載と、薬セット箱の一面に誰でも分かるよう明記し、洩れない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全般に「生活リハビリ」と捉え、特別なことをするのではなく生活していく中で出来る事、出来るかもしれない事への挑戦の中で、一人ひとりの力が発揮できるような支援をしている。中には「計算は任せなさい！」とガッツポーズされる方もありそろばんをはじいていただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームの行事で普段いけないようなところへの外出は月1回程度で行っている。入居者様の希望で釣り外出も実施した。行事によっては、家族様、2Fの入居者様と一緒に掛けることもある。また、日常的に近所の散歩もしている。	散歩、買い物、草取り、畑を見に行く等希望に沿った支援を行い、近くの神社へ参ったり天気の良い日は外でお茶会をしている。花見、紅葉見学、演芸会を見に行く等出掛ける機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出をする時には、ご自分でレジに並び支払いをされる方もありますが、これも預かり金からお渡ししている。預かり金は、特定の外出時に支払いが出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からの申し出や、入居者様の状況から御家族様へ電話をしていただくこともある。又、お正月には御家族様へ向けて年賀状も届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の床掃除、手すり拭き、椅子拭き等の実施や、入居者様の言葉や温度計を基に室温調整を行っている。又、共同作業で作った手作りの季節の絵や歌を掲示し口腔体操時に唱和している。季節によっては網戸にし、風も取り込んでいる。	利用者と一緒に作ったペーパークラフトや釣りに出掛けた時等の行事の写真を飾り、ソファーや畳の間には炬燵を置き、落ち着いた温かみのある空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳スペースもあり、家族様の面会時や入居者様の昼寝に使用している。又、ホールの同机の入居者様同士で会話が弾んでいる光景も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からの要望で絵や写真を飾っている方もおられる。他にも、馴染みの家具を置いたり、家族の写真を飾ったりされている。寝具も使い慣れた物から新しい物までご本人が心地よく休めるようご家族と相談しながら決めている。	使い慣れた枕、大切にしているキューピー人形などが置いてある。利用者の生活スタイルに合わせて必要な物を持ち込み安心して過ごせる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所には手すりが設置してある。見やすい箇所への時計やカレンダー設置、安全面に配慮した環境整備を随時行っている。		